

経営比較分析表（平成29年度決算）

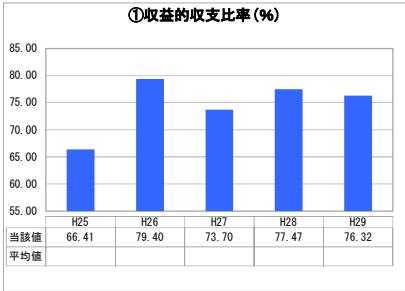
広島県 三次市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	7.10	100.00	2,937

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
53,204	778.14	68.37
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,748	2.93	1,279.18

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



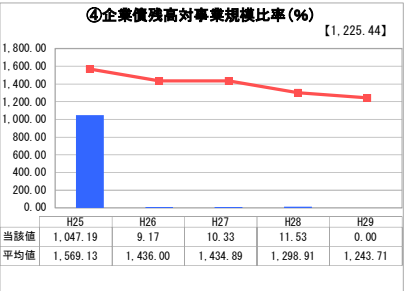
「単年度の収支」



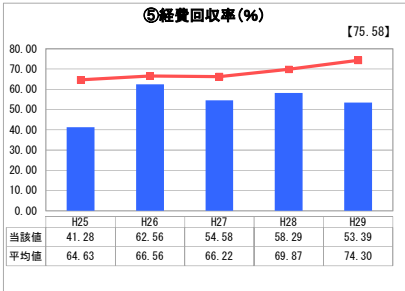
「累積欠損」



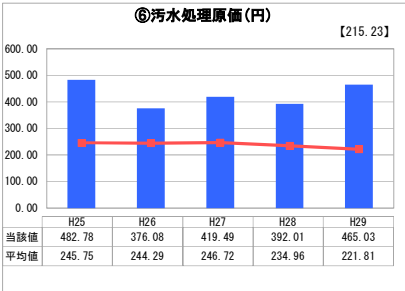
「支払能力」



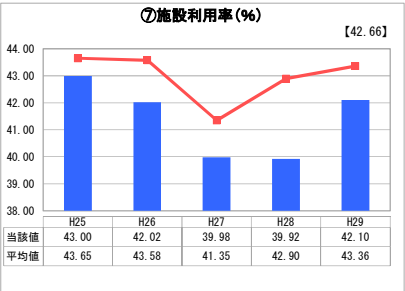
「債務残高」



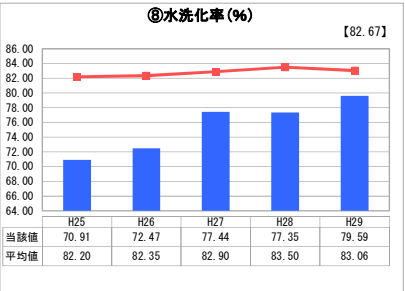
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

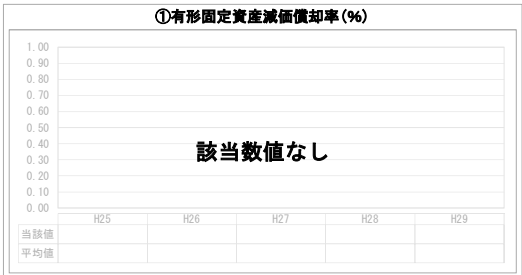


「施設の効率性」

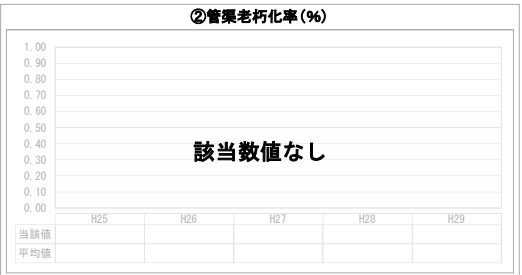


「使用料対象の捕捉」

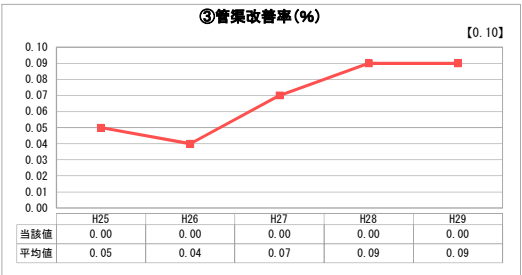
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

●収益の収支比率、企業債残高対事業規模比率
平成29年度の収益の収支比率は、昨年度とほぼ横ばいであった。公共下水道事業同様に、一般会計からの繰入金に依存しているところが大きい。今後は経営改善に努めるとともに、使用料の適正化に努める必要がある。企業債残高対事業規模比率は、平成29年度においては、企業債の償還財源について、一般会計からの繰入金の充当により0%となっている。

●経費回収率、汚水処理原価
平成29年度の経費回収率は、料金収入の減少と汚水処理費の増加により、昨年度に比べ4.9ポイント低下している。平均値も下回っている状況であり、料金収入の確保及び汚水処理費の削減が必要である。汚水処理原価は、昨年度に比べ73.02円悪化している。一部特環地区を公共下水道への接続により、年間有収水量が減少したためである。また、汚水処理原価が平均値より高い理由は、8市町村の合併により、現在5処理場を有しているためである。今後も、経常的経費の節減と適正な経費回収に努め、処理場の統廃合について検討する。

●施設利用率、水洗化率
平成29年度の施設利用率は昨年に比べ2.18ポイント上昇している。水洗化率は続人口の増と処理区内人口の減により、昨年度に比べ2.24ポイント上昇しているが、平均値を下回っている。今後も加入促進を行い、水洗化率向上に努める。

2. 老朽化の状況について

平成3年から下水道工事に着手し、平成6年から供用開始しているため、管渠の老朽管等の更新については、ストックマネジメント計画の導入により計画的な更新に努める。

全体総括

8市町村の合併により、現在5処理場を有しているため、汚水処理原価が高く、経費回収率や施設利用率が平均値に比べ低い状況にある。平成31年度4月からの公営企業会計移行後は、施設効率の改善や料金体系の見直しを行いながら、計画的な事業展開に努める。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益の収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。